

氏名	東原 亜希子	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	助産学・母性看護学・補完代替医学				
学位	博士（看護学）				
学歴	2017年聖路加国際大学大学院看護学研究科博士後期課程				
経歴	2002～2007年秋草学園短期大学非常勤講師、17年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教、20年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	日本助産学会、日本母性衛生学会、日本看護科学学会、日本看護シミュレーションラーニング学会、日本ヒューマンケア・心理学会、日本母性看護学会、埼玉県立保健医療福祉科学学会				

【2020年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	模擬産婦が分娩第1期から第2期を演じるリアルな分娩介助演習の工夫	共同	第2回日本看護シミュレーションラーニング学会	○東原亜希子、山本英子、鈴木幸子	2021.3	
2	分娩介助実習前のICTを活用した遠隔授業とCOVID-19感染対策を講じた演習の工夫	共同	第35回日本助産学会	○東原亜希子、兼宗美幸、青木恭子、山本英子、森田亜希子、浅井宏美、齋藤恵子、齋藤未希、千葉真希子、鈴木幸子	2021.3	
3	新人助産師の母乳育児支援に対する思い	共同	第35回日本助産学会	○高橋純菜、東原亜希子	2021.3	
4	Web会議ツールを活用した妊産褥婦に対する遠隔実習の実践	共同	第35回日本助産学会	○森田亜希子、鈴木幸子、兼宗美幸、東原亜希子、千葉真希子、山本英子、齋藤未希、浅井宏美、齋藤恵子、青木恭子	2021.3	
5	助産学生対象の新生児ケアの演習におけるCOVID-19感染対策および教育上の工夫	共同	第35回日本助産学会	○浅井宏美、山本英子、東原亜希子、森田亜希子、兼宗美幸、青木恭子、千葉真希子、齋藤未希、齋藤恵子、鈴木幸子	2021.3	
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間		
1	文部科学省・日本学術振興会学術研究助成基金助成金（若手研究）	骨盤位の妊婦が実施する無煙棒灸の頭位変換の効果：ランダム化比較試験	研究代表者	2019.4～2023.3		
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	遺伝と看護	○	8	科目責任者として、倫理的側面からケアを考え、看護職者として必要な倫理的知識、態度、行動について、PBLチュートリアルを通して考えさせた。遠隔授業（Zoom）で実施しPBLの小グループはブレイクアウトセッションを用いた方法を実施したが、遠隔でも有効的な学びできたと学生からの評価を得た。		
2	周産期のケア		1	出産準備教育と妊娠期の運動の目的や方法が理解できることを学習目標とし、妊娠期の健康教育やバースプランの重要性を認識できるよう努めた。遠隔授業。		

3	母性看護学Ⅱ 「分娩期」		3	分娩期の産婦・胎児・家族のアセスメントと看護として、分娩の生理、看護、異常時の対応を視聴覚教材や模型を取り入れ、イメージできるように取り組んだ。遠隔授業。
4	母性看護学Ⅱ 「遺伝相談と出生前診断」		2	遺伝疾患および出生前診断について説明でき、遺伝看護および出生前診断に関連する倫理的課題について考えることができるよう講義を実施した。身近に感じられるようニュースなど時事問題にも触れ、自分事として捉えられるよう工夫した。
5	分娩期のケア		2	分娩期のケアについて、様々なガイドラインを用い、エビデンスを基にした分娩期のケアの実践ができるような講義とした。また遠隔授業であったが、学生全員画面オンにして、経穴の場所を把握し指圧を実施したり実践を取り入れるよう工夫した。

(2) 演習

	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	分娩期のケア 「分娩第1期の看護」		2	4年次助産系履修学生を対象に分娩第1期のケアの演習として、動画教材の視聴を通して、助産師の実施するケアとその根拠や、分娩第1期の観察項目と実際の産婦や家族の状態を把握できる力を身につけられるよう工夫した。
2	分娩期のケア 「内診」 「出生直後の新生児のケア・蘇生法」		4	4年次助産系履修学生を対象に対面の演習にて、感染対策を徹底した上で実施した。内診演習では模型を用いて、実際の産婦に実施するような声掛けや配慮に注意しながら実習で活かせるよう工夫した。新生児蘇生演習では、新生児蘇生法一次コースインストラクターとしての経験を活かしてデブリーフィングに力を入れ指導した。
3	分娩期のケア 「分娩介助実習代替演習3例目」		4	4年次助産系履修学生を対象に分娩第1期～第2期の実際の産婦の変化を理解できるよう模擬産婦を用いたシミュレーション演習を実施した。胎児の健康状態把握のために胎児心拍陣痛図再生装置を用い、波形や胎児心拍の音を感じ取ってもらえるよう工夫した。シミュレーション教育を導入し、学生がより能動的に学べるよう工夫した。
4	周産期のケア 「妊婦の運動：マタニティピクス体験」 「助産師外来」		3	3年次助産系履修学生を対象に、実際のオンラインマタニティピクスを体験してもらい助産師活動の多様性を実感してもらった。インストラクターの全身が見え、動きが分かるようなwebカメラアングル調整など工夫した。助産師外来演習（妊娠期の保健相談）は遠隔で助産師役妊婦役のロールプレイをさせ、学生の自己課題が明確になるように、また総合実習や助産実習で活かせるよう、イメージしやすいように工夫した。
5	母性看護学Ⅱ 「母乳育児支援と新生児の抱き方」		4	2年次生を対象に、オンラインで新生児の抱き方、進行性変化（乳房乳頭の観察、授乳への援助法）について、ロールプレイを用いた演習をした。資料作成においても実際の写真を掲載するといった実際のイメージがしやすいように工夫した。

(3) 実習

	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	母性看護学実習		2020.5～7	3年次生を対象に、2週間のオンライン遠隔実習指導を行った。架空紙上事例ではあったが、褥婦の対象理解のために、学生一人一人が看護過程を展開し評価できるよう導いた。
2	総合実習		2020.7	4年次助産系履修学生4名を対象に、遠隔実習を担当。実際の妊婦、褥婦にインタビューを実施し、健康課題を抽出し、健康教育実施に向けた指導案作成、媒体作成の指導に力を入れた。
3	助産学実習Ⅱ		2020.8～10	4年次助産系履修学生3名を対象に、8週間の分娩介助実習指導を行った。COVID-19感染対策を徹底し、個別性を重視した助産診断・ケア、家族の支援が得られない状況下での支援のあり方などを考え、実施できるよう指導した結果全員が目標を達成することができた。
4	IPW実習		2020.10	オンライン遠隔実習指導を行った。個々の学生が自主的に参加できるよう、チーム形成の過程を見守りながら教員ファシリテーターとしてサポートした。

(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2020.4～2021.3	主指導 2名	副指導 名
2	修士論文		主指導（指導教員） 名	副指導（指導補助教員） 名
3	博士論文		主指導（指導教員） 名	副指導（指導補助教員） 名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	厚生労働大臣指定学校法人晃陽学園 晃陽看護栄養専門学校 助産学科非常勤講師	2020.4～2021.3	非常勤講師として「助産学研究」の講義8時間を担当。主に助産学研究の目的と意義、研究方法を教授した	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研究会、公開講座等の講師				
	講演会、研究会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	国際協力事業	財団法人埼玉県国際交流協会	地球市民育成事業日本人講師。小・中・高校の教育現場や地域社会に対し国際理解・多文化共生への認識を増進する事業の企画・調整。ワークショップや海外での活動体験を紹介（要請に応じ年間に3ヶ所程講演活動中）	2011.4～
2	第12回埼玉県立大学保健医療福祉科学学会		学術大会企画準備委員のメンバーとして活動中	2021.3～
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	該当なし			
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	学校法人聖路加国際大学	妊婦・母子の運動指導（マタニティピクス・アフターピクス講師）。運動クラスの企画運営。学校法人聖路加国際大学聖路加助産院マタニティケアホームにて隔週土曜日担当	2017.4～
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	研究推進委員会 共同実験管理部会		2019.4～
2	学生支援	看護学科1年生担任		2020.4～
3	学生支援	卒業生・在校生の支援として助産系履修学生同窓会担当		2018.4～2021.3
4	国際交流活動	小学校訪問への参加（1回）		2021.1
5	大学広報活動	オープンキャンパスで紹介する媒体作成に協力		2020.7
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				